

保険薬剤師の多職種連携の現状と課題

田中 美幸¹⁾、堀尾 嘉孝²⁾、浅井 宏昭³⁾、長屋 弥生³⁾、長尾 久義³⁾、前田 守⁴⁾、
長谷川 佳孝⁴⁾、月岡 良太⁴⁾、森澤 あずさ⁴⁾、大石 美也⁴⁾

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 岐阜大学店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 那加店
- 3) 株式会社アインファーマシーズ
- 4) 株式会社アインホールディングス

【目的】超高齢社会に向けて保険薬剤師が地域医療に貢献するためには、在宅医療にも積極的に介入する必要があるとあり、多職種との連携が重要となる。そこで本研究では、多職種連携の現状を調査し、保険薬剤師の多職種連携における課題を抽出した。

【方法】2018年3月10日開催の「がん緩和ケアと地域連携シンポジウム」にて、多職種103名に「職種」「保険薬剤師との連携有無」「保険薬剤師に期待する内容」についてアンケート調査した。また、2018年4月に当社中部地方3県(愛知・岐阜・静岡)に所在する31店舗の薬剤師110名に、「多職種連携経験の有無」「連携した職種」「連携経験がない理由」「連携会議の参加経験」「会議に参加しない理由」についてアンケート調査した。

【結果】多職種へのアンケートの有効回答は66名(薬剤師8名は除く)であり、ケアマネージャーが22名と最も多く、次いで看護師が20名、医師が5名であった。これらの68.2%に保険薬剤師との連携経験があった。保険薬剤師への期待内容は、「残薬調整」が37名(56.1%)、「薬の提案」が35名(53.0%)であった。当社薬剤師の52名(47.3%)に多職種連携の経験があり、経験がない58名のうち39名(67.2%)が「どこで連携しているかわからない」と回答した。また、41名(37.3%)に連携会議の参加経験があったが、経験がない69名のうち45名(65.2%)が「開催されていることを知らない」と回答した。

【考察】本結果から、多職種から保険薬剤師に対して残薬調整や薬の提案に期待がもたれているが、保険薬剤師の多職種連携経験や連携会議の参加経験は低く、十分に期待に答えられていないことが考えられた。これらの経験がない理由の6割以上が「認知していない」であったことから、保険薬剤師は地域の在宅医療の状況を把握し、積極的に多職種に連携を働きかける姿勢を持つ必要があると考える。

(第12回日本薬局学会学術総会(2018年11月, 名古屋)にて発表)